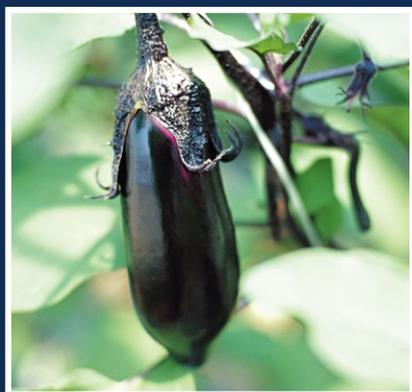




アドマイア[®]

①粒剤



幅広い適用作物と優れた残効性。
定植時の植穴処理。
少ない薬量で長～い効き目!!

- 浸透移行性に優れ、長期間主要害虫を防除します。
- 防除回数を減らせるので省力化が図れます。
- 速効的に作用し、ウィルス病を予防します。



アブラムシ類



コナジラミ類



ミナミキイロアザミウマ

950g入



3kg入



適用害虫および使用方法

(2019年3月現在の登録)

作物名 []は適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*	
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	3kg/10a	収穫7日前まで	2回	散布	3回(種もみへの処理または移植時までの処理は1回、本田での散布は2回)	
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	20g/樹 (但し、6kg/10aまで)	育苗期	1回	株元散布	—	
	イネネクイハムシ	3kg/10a	植付時		植溝土壌混和	3回(植付時の土壌混和は1回、植付後は2回)	
れんこん	クワイクビレアブラムシ	4kg/10a	収穫14日前まで	2回	散布	3回(植付時の土壌混和は1回、散布は2回)	
	コガネムシ類	4~6kg/10a 6kg/10a	植付前	作条土壌混和 全面土壌混和	3回(植付前の土壌混和は1回、散布は2回)		
さといも さといも(葉柄) ばれいしよ	アブラムシ類	4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	3回(植付時の土壌混和は1回、植付後は2回)	
豆類 (種実、ただし、 だいずを除く)		3kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)	
だいず		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1箱(30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り50g	は種時	1回	本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの培土に均一に混和する	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)	
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめを除く)		2g/植穴 (但し、6kg/10aまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	
えだまめ		3kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	3回(定植時およびは種時の土壌混和は合計1回、散布は2回)	
		2g/植穴(但し、6kg/10aまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	3回(定植時およびは種時の土壌混和は合計1回)	
さやいんげん		3kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	3回(定植時およびは種時の土壌混和は合計1回)	
未成熟そらまめ		1~2g/株(但し、6kg/10aまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	3回(定植時およびは種時の土壌混和は合計1回)	
きゅうり		アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	1~2g/株 2g/株	育苗期後半	1回	株元散布 植穴または株元土壌混和	4回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温燻蒸は合計3回)
すいか		アブラムシ類	5g/株(但し、3kg/10aまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)
	アザミウマ類	1~2g/株(但し、3kg/10aまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
メロン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	1g/株 1~2g/株 2g/株	育苗期後半	1回	株元散布 植穴または株元土壌混和	4回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は合計3回)	
かぼちゃ	コナジラミ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	
にがうり	アブラムシ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴または株元土壌混和	2回(定植時の土壌混和は1回、散布は1回)	
まくわうり	アブラムシ類	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
ズッキーニ	アザミウマ類 コナジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
トマト	コナジラミ類	0.5~1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回)	
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回)	
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回)	
とうがらし類	アブラムシ類 アザミウマ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴または株元土壌混和	3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温燻蒸は合計2回)	
なす	アブラムシ類 アザミウマ類	1g/株 1~2g/株	育苗期後半	1回	株元散布	3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温燻蒸は合計2回)	
にら	アザミウマ類	4kg/10a	定植時	1回	植溝土壌混和	2回(定植時の土壌混和は1回、株元散布は1回)	
にら(花茎)	ネギアザミウマ	4kg/10a	収穫30日前まで	1回	株元散布	2回(定植時の土壌混和は1回、株元散布は1回)	

作物名 []は適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*
わけぎ あさつき ねぎ	アザミウマ類	4kg/10a	定植時	1回	植溝土壌混和	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)
はくさい	アブラムシ類	0.5g/株	は種時	1回	植穴土壌混和	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)
キャベツ	アブラムシ類	0.5g/株	は種時	1回	播溝土壌混和	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)
ごぼう	アブラムシ類	4kg/10a	収穫7日前まで	2回	株元散布	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)
だいこん	アブラムシ類	3~6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)
ほうれんそう かぶ	アブラムシ類	4kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)
非結球あぶら な科葉菜類	アブラムシ類	3~6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	2回(は種時の土壌混和は1回)
なばな類	アブラムシ類	3~6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	なばなは2回(は種時の土壌混和は1回)、なばな以外のなばな類は1回
ブロッコリー	アブラムシ類	0.5g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回(育苗期の灌水は1回、定植時の土壌混和は1回、散布は2回)
レタス	アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半	1回	株元散布	3回(育苗期の処理は1回、散布は2回)
いちご	アブラムシ類	0.5g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
パセリ	アブラムシ類	3kg/10a	収穫14日前まで	1回	株元散布	2回(定植時までの処理は1回、散布は1回)
ごま	アブラムシ類	3kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	1回
こんにやく	アブラムシ類	3~6kg/10a 6kg/10a	培土時 (基根伸長期)	2回	株元土壌混和	3回(培土時の土壌混和は1回、散布は2回)
やまのいも	アブラムシ類 コガネムシ類	4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	3回(植付時の土壌混和は1回、散布は2回)
やまのいも (むかご)	コガネムシ類	4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回
じゅんさい [じゅんさい田]	ユスリカ類	3kg/10a	収穫前日まで	2回	散布	2回
たばこ	アブラムシ類	3kg/10a (1g/株)	植付時	1回	植穴土壌混和	2回(植付時の土壌混和は1回、散布は1回)
花き類(観葉植物 (きく、ほら、ペチュニア、レザーフーンを除く))	アブラムシ類	2g/株(但し、6kg/10aまで)	生育期	5回	株元散布	5回
樹木類 (つじ類を除く)	コガネムシ類	4kg/10a	植付時	2回	作条土壌混和	2回
つつじ類	ツツジグンバイ	6kg/10a	植付又は 植替時	2回	作条土壌混和	5回(株元灌水は2回、土壌混和は2回)
きく	アザミウマ類	3kg/10a	発生初期	5回	株元散布	5回
ペチュニア	アブラムシ類	2g/株(但し、6kg/10aまで)	生育期	5回	散布	5回
レザーフーン	アブラムシ類	1g/株(但し、3kg/10aまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	5回
ポインセチア	アブラムシ類	2g/株(但し、6kg/10aまで)	定植時	1回	株元散布	5回
ばら	コナジラミ類	1g/株(但し、3kg/10aまで)	生育期	5回	株元土壌混和	5回
ばら	イバラヒゲナガアブラムシ アブラムシ類	2g/株(但し、6kg/10aまで)	生育期	5回	株元土壌混和 株元散布	5回

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

注意事項

- 畜に対して長期間毒性がありますので、絶対に糞尿にからないようにして下さい。
- ミツバチに対して影響がありますので、ミツバチの巣箱及びその周辺にからないようにして下さい。本剤の作物への処理後、ミツバチの訪花活動に影響を及ぼすおそれがありますので注意して下さい。
- 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
- きくのミニキイロアザミウマに使用する場合、生育期後半に使用すると効果不十分になる場合がありますので生育期前半に使用して下さい。
- 本剤をだいこんに使用する場合、間引き菜またはつまみ菜として食用には供さないで下さい。
- トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、メロンの育苗期後半に使用する場合は、直径9cm以上のポットで育苗した苗に使用することとし、それ以外の使用は業者を生じるおそれがありますのでご注意下さい。
- かんきつに使用する場合、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後灌水をして下さい。効果発現が遅れることがありますので、対象害虫発生前に使用して下さい。
- 本剤を稲およびれんこんおよびいんげんさいに散布で使用する場合、灌水状態が均一に散布し、散布後少なくとも7日間はそのまま灌水状態を保ち、落水、かけ流しはしないで下さい。

- だいずおよびえだまめの育苗培土に混和処理する場合には、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した育苗培土を放置しないで下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に業者の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 取扱いは十分に注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐きださせ、直ちに医師の指導を受けて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けて下さい。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。また粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 水産動物(甲殻類)に影響を及ぼしますので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 散布後は水管理に注意して下さい。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のないものが使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を図って下さい。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropsience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00、13:00~17:00
土・日・祝日を除く

(F-1021 19.03.IS)